様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ６ 月 ２８ 日現在

機関番号：２８００１
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2012～2014
課題番号：２４７２００４７

研究課題名（和文）戦後沖縄における美術に関する研究環境整備に向けた文献資料データベースの構築

研究課題名（英文）Construction of text materials database for the research environment improvement on fine art after World War II in Okinawa

研究代表者
土屋　誠一（Tsuchiya, Seiichi）

沖縄県立芸術大学・美術工芸学部・准教授

研究者番号：８０４５９２８９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,000,000円

研究成果の概要（和文）：　主に沖縄県立図書館、沖縄県公文書館において、『沖縄タイムス』紙、『琉球新報』紙を縦覧し、必要な文献をピックアップするという作業を行い、Microsoft Accessを使用して必要な書誌データを入力、整備したのち、システム構築を研究協力者の助力を得て、「戦後沖縄美術文献情報データベース」（https://sites.google.com/site/opuoageijutsu/link/1）として公開するに至った。
　また、毎年度にわたり、本研究プロジェクトの一般への啓発のための公開研究会も行われた。

研究成果の概要（英文）：Mainly Okinawa Prefectural Library , in Okinawa Prefectural Archives , " Okinawa Times " paper , " Ryukyu Shimpo " is inspection of the paper , to perform a task of picking up the necessary texts , and input the required bibliographic data using Microsoft Access , after maintenance , the system built with the help of collaborators , which has led to the public as a " post-war Okinawa art information database " (https://sites.google.com/site/opuoageijutsu/link/1) .
In addition , over the year degrees , public study group for the enlightenment to the general of this research project also line We were .

研究分野：美学・美術史

キーワード：戦後沖縄美術史　文献資料　データベース

１．研究開始当初の背景

戦後沖縄における美術活動は、いわゆる日本本土におけるそれとは異なり、特異な活動が形成された場であると言える。今世紀に入り、沖縄で行われた、ないし、沖縄に関連する美術活動に対する学術的関心は高まっており、このことは、戦後日本美術や文化の多様性を再認識することの必要性に基づくとともに、ポストコロニアル理論に基づく多文化主義的な視点において、美術を見直すことの重要性の認識に基づくものである。さらには、「日本美術」という単一の国民国家の視点における学術的検証では、国際的な横断性を伴う戦後社会を捉える際には限界があり、とりわけ東アジア圏に広く目を向けた研究が急務であるのは疑いなく、そのなかの重要な地域のひとつが沖縄であると考えられる。

そのような学術的要請を背景とすると、戦後沖縄を含みこむ沖縄近現代美術を主眼とした調査・研究機関である、沖縄県立博物館・美術館の設立（2007 年）とその活動を、戦後沖縄美術の研究環境の端緒として位置付ける必要があるだろう。同博物館・美術館で開催された、「沖縄文化の軌跡 1872-2007」展（2007 年）は、美術館の開館準備展として開催された「沖縄戦後美術の流れ」展（1995 年）以来の、戦後沖縄美術を含みこむ、総合的な展覧会として注目すべきものである。また、同館では、戦後沖縄美術の展開の第一歩であり、多くの先駆的な芸術家を擁した「ニシムイ美術村」（1948 年設立）の重要なメンバーである画家を取り上げた展覧会として、「名渡山愛順展」（2009 年）、「安谷屋正義展」（2011 年）が開催されている。また、申請者も研究者としてその企画実施に参与した展覧会であるが、沖縄の本土復帰直前に作家活動を開始した、極めて重要な写真家として知られる比嘉康雄（1938-2000 年）の回顧展、「母たちの神　比嘉康雄展」（2010 年）もまた、見逃せない研究成果である。さらに、沖縄県外でも沖縄における美術に対する関心は高まっており、その象徴的な催しとしては、東京国立近代美術館で開催された「沖縄・プリズム　1872-2008」展（2008 年）を挙げておかねばならない。

このような事例が示すように、戦後沖縄の美術に対する学術的注目が集まりつつあるのは疑いないものの、その学術的研究の成果や蓄積といった点においては、不充分と言わざるを得ない。各展覧会に際して刊行された展覧会カタログには、概説的な論文は掲載されており、重要な先行研究であるのは確かである。だが、それらは多くは概説にとどまっており、学術的な観点において豊かな研究成果であるとは言い難い。このような事態を招く原因は、当該分野における学術的な研究蓄積の乏しさに起因するものであるのは勿論ではあるが、なによりも、研究における一次資料となる、当時の文献資料が集成されていないことにある。本研究では、爾後の戦後沖縄美術についての、高度に学術的な研究に資するために、その第一次的な基礎研究として、当該分野の文献資料の収集とそのデータベース構築に主眼を置くものである。

本研究では研究対象とする時代として、1945 年から 1972 年に限定することになるが、その点については次のような妥当性と有意性を挙げることができる。当該期間は、アメリカ合衆国の施政権下に置かれていた期間であり、例えば、先に挙げた「ニシムイ美術村」に参画した名渡山愛順、安谷屋正義、山元恵一、金城安太郎、玉那覇正吉、大城皓也、具志堅以徳といった、戦後沖縄での美術を牽引した美術家たちは、その多くが琉球列島米国軍政府（後に琉球列島米国民政府）や、その実質的な下部組織である沖縄民政府（後に琉球政府）の後ろ支えによって、沖縄戦において灰塵と化した戦後沖縄での美術活動を開始しており、そのような社会的下部構造との関係性を無視しては、戦後沖縄美術の特異性を記述することは不可能である。また、その点こそが、日本本土と沖縄との戦後美術の決定的な差異であり、沖縄美術の特質を形成する条件ともなっている。以上のような観点から、アメリカ施政権下時代を研究の枠組みとして設定することは、戦後沖縄美術の特質を明らかにするための、基軸となるのである。

２．研究の目的

本研究は、近年注目を浴びつつあるものの、研究の環境やその蓄積が整っているとは言い難い、戦後沖縄における美術を対象に、その研究のための基礎的文献資料の集成を目指すものである。（1）終戦（1945 年）から本土復帰（1972 年）の沖縄で展開された、ないし、沖縄に関連する美術関連資料群を網羅的に収集し、（2）収集した資料の分析的検討を行い、（3）それらのデータベース化を課題とし、（4）広く公開することによって、（5）戦後沖縄美術史の研究に資するのみならず、戦後日本美術史を相対化する視点を提供し、爾後の東アジア圏の美術に対する国際的な研究需要を惹起し、それに対する基礎的研究資料を形成することを目的とする。

３．研究の方法

戦後沖縄美術史に関する本研究は、文献資料の収集およびその分析と、それに基づくデータベースの構築が主たる目的である。収集対象となる文献資料は、新聞・雑誌といった定期刊行物が中心となるものの、活字メディアが豊富に出版されたとは言い難い戦後沖縄において、公刊文献のみに研究リソースを頼るのは不充分である。米国民政府の施策として展開された美術活動については、公文書館などに収蔵されている非公刊資料にも当たる必要がある。また、研究対象とする時期の沖縄における美術についての識者の高齢化が進んでいるため、オーラル資料の取得も考慮する必要がある。そのため本研究は、「公刊文献資料の収集」、「非公刊資料の収集」、「オーラル資料の収集」を資料収集の柱とし、各々を精査・分析した上で、構築されるデータベースのデザインを検討し、順次公開するという手順になる。

４．研究成果

主に沖縄県立図書館、沖縄県公文書館において、『沖縄タイムス』紙、『琉球新報』紙を縦覧し、必要な文献をピックアップするという作業を行い、Microsoft Access を使用して必要な書誌データを入力、整備したのち、システム構築を研究協力者の助力を得て、「戦後沖縄美術文献情報データベース」（https://sites.google.com/site/opuoageijutsu/link/1）として公開するに至った。

また、毎年度にわたり、本研究プロジェクトの一般への啓発のための公開研究会も行われた。

残念ながら、当初の目標であった、雑誌等他媒体の美術関係文献まで網羅することは叶わなかったが、戦後沖縄における美術に関する研究環境整備という観点においては、沖縄ローカル紙の新聞資料が最も重要な資料であることは間違いないことであり、その文献資料のデータベースの構築が完了し、公開することが可能になったことは、当該分野の基礎データに対するアクセシビリティを格段に向上させることができたという点において、当該分野の研究における多大な寄与に成功したことを確信している。データベースのシステムのプラットフォームは本研究にて確立することができたので、爾後、さらに資料の探索と検討を重ねることで、データベースのレコードを拡充することを目指したいと思う。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 1 件）

① 土屋誠一「時のモンタージュ　東松照明論」『現代思想』41 巻 6 号、査読無、23-33 頁、2013 年

〔学会発表〕（計 0 件）

〔図書〕（計 3 件）

① 土屋誠一ほか『福沢一郎展　沖縄の子どもたちへ贈られた 34 点　平成 26 年度那覇市文化芸術ふれあい事業』那覇市市民文化部文化振興課、89 頁、2015 年

② 土屋誠一ほか『日本写真の 1968　1966～1974　沸騰する写真の群れ〔展覧会図録〕』東京都歴史文化財団東京都写真美術館、219 頁、2013 年

③ 土屋誠一ほか『復帰 40 年の軌跡「時の眼－沖縄」比嘉豊光・山城博明写真展　図録集』琉球新報社、164 頁、2012 年

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

「戦後沖縄美術文献情報データベース」（https://sites.google.com/site/opuoageijutsu/link/1）

６．研究組織
(1)研究代表者
土屋 誠一（Tsuchiya,Seiichi）
沖縄県立芸術大学・美術工芸学部・准教授
研究者番号：80459289

(2)研究分担者
なし

(3)連携研究者
なし

(4)研究協力者
永崎 研宣（Nagasaki, Kiyonori）
一般財団法人人文情報学研究所・人文情報学
研究部門・研究員
研究者番号：30343429